

2021 年度 経済学部 FD 活動報告

2021 年度の経済学部 FD 活動計画に従って下記の活動を行った。

1. 学生対象

(1) 「学生生活とその成果に関するアンケート」

毎年 12 月に 4 年次生を対象として行っている学生生活とその成果に関するアンケート（以下、学生生活アンケート）を 2021 年度も実施した。このアンケートでは、大きく「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」の項目について 18 個の質問項目を設定している。さらに、今年度のアンケートでは、経済学部のディプロマ・ポリシーに関する質問項目を 5 個追加し、コロナ禍の影響により、オンラインで実施した。

このアンケートの結果は FD 委員によって分析され、その内容が 2022 年 2 月 19 日の第 3 回経済学部 FD 研修会において報告された。また、毎年この結果と分析をふまえて次年度の経済学部研修会の議題を設定する。

(2) 「経済演習制度」

2021 年度に卒業する学生には 3 年間のゼミ活動が必修として義務づけられている。1 年次には、経済基礎演習において担当教員の指導を受け、議論の仕方や資料検索の方法、論文・レポートの書き方などを学び、全てのゼミで春学期に「書評」または「修了レポート」を、秋学期に「修了論文」を提出することとなっている。

3・4 年次には、経済専門演習において 2 年間、同一の教員から専門的な指導を受け、最終的に卒業論文の作成へと結びつける。この 2 年間の内に、国内外の他大学との研究発表会やインターゼミと呼ばれる活動を行うゼミナールも存在している。4 年次の最後には、卒業論文を提出しなければ経済専門演習 IV の単位が与えられない。学生生活アンケートでは 87.7%が 3 年間の経済演習制度に「非常に満足」、あるいは「まあまあ満足」と回答していた。

(3) 「能力別クラス編成」

2009 年度から「経済学のための数学」で、2012 年度から「ビジネス英語」と「時事英語」で能力別クラス編成を実施している。受講生の状況に応じて到達目標や教授方法に差異を持たせることで、きめ細かな指導が可能となっている。学生生活アンケートでは、80%以上の学生が能力別クラス編成に満足している（「経済学のための数学」に対しては 89.4%、「ビジネス英語」、「時事英語」に対しては 82.7%）。

(4) 「経済学部オリエンテーション」

経済学部では、例年、3/31～4/3 にかけて、新入生に対して学部長講話、経済学部のカ

リキュラム説明、1年次のゼミガイダンス、第1・第2クォーターの履修登録指導、数学テスト、経済学部学び方講座（2021年度は別の日程（5月19日）にオンラインで実施）といった内容の新入生ガイダンスを実施している。新入生にとっては最初に大学と関わる場であり、ここでカリキュラムのねらいやゼミの内容、学生生活上の留意点、進路決定に向けた心構え等について説明を受けたり質問したりすることができる。

しかしながら、2021年度はコロナ禍ではあったが、3月31日、4月1日に、対面でオリエンテーションを行い、経済学部のカリキュラム説明、1年次のゼミガイダンス、第1・第2クォーターの履修登録指導、数学テストを行った。限られた時間内で、コロナ対策をとりつつ行う必要があったが、効率よく無事に行うことができた。

(5) 「経済学生論集」

指導教員から推薦された個人やグループによる論文を、『経済学生論集』（南山大学経済学会発行）としてまとめている。2021年9月に刊行された第35集には7編の論文が掲載された。また、論集の最後には、2020年度に提出された全ての卒業論文のタイトルが記載されている。

(6) 「学部長表彰者との懇談会」

毎年5月に、成績優秀者に対する学部長表彰式の後に、学部長と学科長が表彰を受けた学生との懇談を行っている。ここで集められた意見は教授会や学部研修会などで報告され、必要があればそれに対する改善提案がなされる。ただし、2021年度はコロナ禍の影響のため中止し、これに代えて、対象学生から教務関係に係る項目を中心に意見聴取（アンケート）を行い、その結果について6月30日の教授会で報告された。

(7) 「Sophomore Fair（4月28日）」

コロナ禍の影響により、入学時から制約の多い大学生活となった2年生を対象に、経済基礎演習ごとに、教員と学生との交流を図る機会を設け、大学内の施設紹介、課外活動紹介、就職状況をはじめ、今後の大学生活で必要となる情報交換を行った。当日は悪天候にもかかわらず、予想以上に多くの学生からの参加があった。

(8) 「オンライン授業に関するアンケート」

4月に、コロナ禍の影響により、ほとんどの授業がオンラインとなった2年生を対象に、オンライン授業の現状に関するアンケートを実施、106名からの回答があった。アンケート結果によると、オンライン授業については、賛否両論あり、意見を集約するのは難しいが、学生からの意見を直接きく機会を持つことができたのはたいへん有益であった。

2. 教員対象

(1) 第1回経済学部FD研修会（6月30日）

第1回経済学部FD研修会では、「大学生の学習インセンティブの高め方 -教育経済学の視点から-」というテーマで、教育経済学の知見を紹介しつつ、大学生の学習インセンティブの高め方について、学部構成員間で議論を行った。この研修会には経済学部教授会構成要員全員が参加した。

(2) 経済学部研修会（第2回経済学部FD研修会：8月26日）

2021年度経済学部研修会では、「入学試験募集人員について」、「経済基礎演習Ⅰの成績基準の目安について」、「科研費申請に関するポイントについて」、「2年生以降の学生に対するゼミ内の履修指導について」、「3ゼミ選考におけるGPAの考慮について」などのテーマで議論した。また、「入試種別による成績追跡調査」についての報告があった。

(3) 第3回経済学部FD研修会（2月19日）

「学生生活アンケート」の分析結果について報告・議論が行われた。今年度も、2020年度と同様に、「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」に関する項目について、さらに、2021年度から追加した「経済学部のディプロマ・ポリシー」に関する質問項目についても、アンケート結果を集計・分析し、2021年度の特徴を明らかにした。

(4) 第4回経済学部FD研修会（2月22日）

第4回経済学部FD研修会では、「ルーブリックによる評価を学ぶ」というテーマで、大阪大学の浦田悠先生にご担当いただいた。ルーブリックによる評価の作成方法から活用事例もご紹介いただき、実際に自分の授業のルーブリックを作成し、意見交換を行った。この研修会には経済学部教授会構成要員だけでなく、他学部等からの参加もあった。

(5) 経済学部FD委員会（メールによる報告・議論；2月22日－3月2日）

FD委員、教務委員、入試広報委員、学生委員、キャリアサポート委員で構成される経済学部FD委員会を開催し、2021年度のFD活動を確認した上で、2022年度のFD活動計画について議論した。

上記の2021年度の経済学部FD活動について、半期ごとに、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシー）の内容を再確認したうえで、全てのFD活動が、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づく活動であったことを確認した。